

# 山西支那人ニ於ケル耳介ノ計測的研究

## 殊ニ其ノ人類學的考察

金澤醫科大學耳鼻咽喉科教室(主任松田教授)

豊 田 文 一

*Bunichi Toyota*

(昭和15年3月14日受附)

(本論文ヲ我が戦友ノ英靈ニ捧グ謹ミテ哀悼ノ微意ヲ表ス)

### 抄 録

山西支那人 成年男子 250 名ノ 耳介ニ 就キ 容貌の耳長, 容貌の耳幅, 形態の耳長, 形態の耳幅, 容貌の耳指數, 形態の耳指數, 耳基耳長指數ノ 計測ヲ 行ヒ, 更

ニ Darwin 氏結節及ビ 耳朵ノ 形態ニ 就キ 觀察シ, ソノ 耳介形態ニ 民族の特徴アルヲ 認め, 民族移動ノ 過程ヲ 窺ヒ 得タ 點モ 尠ク ナカッタ.

### 目 次

第1章 緒 言	第4章 總括並ニ考察
第2章 検査人員(特ニソノ民族の系統ニ就テ)並ニ検査方法	第1項 容貌の耳長
第3章 検査成績	第2項 容貌の耳幅
第1項 容貌の耳長	第3項 形態の耳長
第2項 容貌の耳幅	第4項 形態の耳幅
第3項 形態の耳長	第5項 容貌の耳指數
第4項 形態の耳幅	第6項 形態の耳指數
第5項 容貌の耳指數	第7項 耳基耳長指數
第6項 形態の耳指數	第8項 Darwin 氏結節
第7項 耳基耳長指數	第9項 耳朵ノ形態
第8項 Darwin 氏結節	第10項 山西支那人耳介ノ人類學的考察
第9項 耳朵ノ形態	第5章 結 論
	引用文獻

### 第1章 緒 言

動物ノ耳介ハ集音並ニ音響傳達器官トシテノ意義ヲ有シ, ソノ種族ニ於テ一定ノ形態ヲ具備シテキル. 人類ニ於テハ最早此ノ如キ生理的意

義ヲ有スルコトナク既ニ退化ノ状態ニアル. 併シ人類ノ耳介ハ各人各種ノ形状ヲ有スルノミナラズ, 人類種族間ニモ一種ノ共通點ヲ見出シ得

ルモノデアリ、此ノ如キ相違ハ文化ノ程度ヲモ想像シ得ルモノデアルト稱スル人類學者モ尠クナイ。從來耳介ニ對スル形態の研究ハ人類學上並ニ宗族發生學上多大ノ興味ヲ喚起サレ、幾多ノ業績ガ殘サレテキル。併シ本邦ニ於テハ耳介ノ形態ニ關スル研究ハ比較的尠ク、東海林、河村、西、宮島ノ諸氏ノ日本人ニ於ケル研究、内

田氏ノ支那人ニ於ケル研究、丸山氏ノ臺灣高砂族ニ於ケル研究ヲミルニ過ギナイ様デアル。

余ハ偶々山西支那人ニ於ケル耳介ノ計測的研究ヲナス機會ヲ得、茲ニソノ成績ヲ敘述シ、先人ノ業績ト比較考察シ、殊ニ山西支那人耳介ノ人類學の知見ニ就キ聊カ補足シテ見ヤウト思フ。

## 第2章 検査人員並ニ検査方法

(特ニソノ民族的系統ニ就テ)

検査人員ハ山西省忻縣(東徑113°, 北緯38°)附近某部落住民成人男子(16歳—78歳)ニシテ外耳、殊ニ耳介ニ何等ノ疾患ヲ經過シナカッタ250名デアル。ソノ年齢の分布ハ次ノ如クデアル。

19歳以下	21名
20—29歳	50名
30—39歳	61名
40—49歳	56名
50—59歳	29名
60歳以上	33名

忻縣附近ニ於ケル住民ノ民族的系統ハ蒙古系統ノ顔貌ヲ呈スルモノ多ク、山西省南部ノ住民ノソレト稍異ツテキル。歴史的ニ見レバイラン高原ニ發生シタイラン種ノ一部ノ東遷スルニ際シ、一ハ北方民族トシテ蒙古ヲ經テ日本ニ至リ、一ハ漢民族トシテ支那東方ニ擴ツタガ、山西省ニ於テハ北方ヨリ北方系人種、南方ヨリ漢民族ガ入り兩者ノ混入ガ行ハレテキルト云ハレル。併シ大體靈石以北ノ山西支那人ハ北方系人種ノ血多ク混ジ、從ツテ被檢人員タル忻縣附近住民モ北方系統ニ屬スルモノト考ヘラレル。

### 検査方法

Martinノ計測法ニ準據シテ行ヒ、被檢者ヲ椅子ニ正坐セシメ、助手ヲシテ頭部ヲ水平ニ固定シ、數種ノ兩脚器ヲ使用シ計測ヲ行ツタ。

計測ノ對象ハ次ノ如キモノデアル。

1. 容貌の耳長(Physiognomische Länge des Ohres)  
耳介最頂點ヨリ耳介最下部間ノ距離ニシテ Schwalbeハ之ヲ耳介最大長徑(Größte Länge des Ohres)ト稱シテキル。

2. 容貌の耳幅(Physiognomische Breite des Ohres)  
耳介基底線ヨリ後方ニ向ヒ耳輪縁ニ達スル耳介最廣部ノ横徑ニシテ、コノ線ハ容貌の耳長ニ直角ヲナスモノ

デアル。Schwalbeハ之ヲ耳介最大幅徑ト稱シテキル。

3. 形態の耳長(Morphologische Länge des Ohres)  
前耳角截痕ヨリ Darwin氏結節間ノ距離ニシテ眞正耳長(Wahre Ohrlänge)トモ云ハレル。但シD氏結節(Darwin氏結節ヲ略ス)ノ缺除シテキルモノハ計測ヲシナカッタ。

4. 形態の耳幅(Morphologische Breite des Ohres)  
耳輪附着部ノ上及ビ下端ヲ連結シター線ノ長サデ、耳基底(Ohrbasis)トモ云ハレル。

5. 容貌の耳指數(Phisognomische Ohrindex)

$$= \frac{\text{容貌の耳幅}}{\text{容貌の耳長}} \times 100$$

6. 形態の耳指數(Morphologische Ohrindex)

$$= \frac{\text{形態の耳幅}}{\text{形態の耳長}} \times 100$$

7. 耳基耳長指數(Ohrbasis-Ohrlängen-Index)

$$= \frac{\text{形態の耳幅}}{\text{容貌の耳長}} \times 100$$

8. Darwin氏結節

Schwalbeノ分類ニ從ヒ6型ニ分ツタ。

第I型 Macacus Form 後耳輪縁ハ捲縮セズ側方ニ向ヒ、遊離縁モ亦後方ニ向フ。

第II型 Cercopithecus Form 結節ハ鈍角ニシテ後方ニ向ハズ、耳輪縁ノ側方ハ肥厚シ、後上縁ハ稍々深ク翻轉シ、後耳輪縁ハ捲縮セズ下及ビ後部ハ多ク側方ニ向ツテキル。

第III型 D氏結節鋭利ニシテ、耳輪縁ハ捲縮シテキル。

第IV型 D氏結節鈍角ニシテ、耳輪縁ハ捲縮シテキル。

第V型 D氏結節ハ軽度ノ肥厚ヲナシ、耳輪縁ハ豊隆ナルモノ。

第VI型 D氏結節ヲ有シナイモノ。

9. 耳朵ノ狀態

- 2型ニ分類シタ。
- 第I型 遊離セル耳朵。
- 第II型 癒着セル耳朵。
- 10. 平均値ノ比較ニハ

$\frac{M_1 - M_2}{\sqrt{m_1^2 + m_2^2}}$  ノ算式ヲ用ヒソノ意義ハ3ヨリ大ナルトキハ平均値ノ差異ハ有意ナルモノトナシ、3ヨリ小ナルトキハ有意ナラズトシタ。

### 第3章 検査成績

#### 第1項 容貌的耳長

山西支那人容貌的耳長ハ第1表ニ示ス通りデアル。

側別：各年齢別ノ左右ノ平均値ハ19歳以下ヲ除キ左側ハ大ナル様ニ見エルガ、ソノ250耳ノ平均値ノ比較ニ於テハ左右ノ大小ニ對スル意義

第1表 容貌的耳長

年 齡	耳數	右 側	$\sigma$	左 側	$\sigma$	右側+左側	$\sigma$
19歳以下	21	63.29±0.663	4.21	62.62±0.744	4.34	62.95±0.499	2.28
20—29歳	50	63.60±0.602	4.26	63.79±0.605	4.62	63.68±0.427	3.01
30—39歳	61	63.53±0.484	3.15	64.17±0.484	3.78	63.85±0.342	2.67
40—49歳	56	65.98±0.537	4.04	66.83±0.512	3.87	66.41±0.371	2.78
50—59歳	29	67.69±0.573	4.25	68.50±0.694	4.36	68.10±0.450	2.42
60歳以上	33	68.32±0.618	3.55	68.56±0.573	3.30	68.44±0.422	2.42
合 計	250	65.40±0.139	2.19	65.45±0.118	1.78	65.43±0.092	1.45

ヲ見出サナイ。

年齢差：各年齢ニ於ケル兩側ノ平均値ノ上カラ觀察スレバ年齢ノ上昇スルニ從ヒ、數値ハ大トナル。統計學的ニ各々ヲ比較スルニ、30—39歳ト、40—49歳及ビ40—49歳ト50—59歳トノ間ニ容貌的耳長ノ差異ヲ認メル。

尙容貌的耳長ノ側別及ビ年齢別ニ於ケル最大値並ニ最小値ハ第2表ニ示ス。即チ右側ニ於テ

ハ79.0—53.0、左側ニ於テハ83.0—54.0ニシテ、觀察全耳ヨリミレバ83.0—53.0デアル。

次ニ検査人員ニ於ケル左右耳ノ容貌的耳長ノ大小ヲ比較スルニ第3表ニ示ス様ニ左>右ハ133名即チ53.2%±3.15%、左=右ハ26名即チ10.4%±1.93%、左<右ハ91名即チ36.4%±3.04%デアル。

第2表 容貌的耳長ノ最大最小

側 別 最大最小	右 側	左 側	右側+左側
	最大—最小	最大—最小	最大—最小
年齢別			
19歳以下	76.0—53.0	70.0—55.0	76.0—53.0
20—29歳	74.0—54.5	77.0—54.0	77.0—54.0
30—39歳	70.5—55.0	71.5—54.5	71.5—54.5
40—49歳	73.5—60.0	76.0—60.0	76.0—60.0
50—59歳	77.0—60.0	74.5—62.0	77.0—60.0
60歳以上	79.0—62.5	83.0—64.0	83.0—62.5
總 括	79.0—53.0	83.0—54.0	83.0—53.0

第3表 容貌的耳長ノ側別ノ差

側別ノ 大小	年 齡		
	左>右	左=右	左<右
19歳以下	10	0	11
20—29歳	23	10	17
30—39歳	28	7	26
40—49歳	39	3	14
50—59歳	16	3	10
60歳以上	17	3	13
合 計	133名	26名	91名
百分率	53.2% ±3.15%	10.4% ±1.93%	36.4% ±3.04%

**第2項 容貌の耳幅**

山西支那人耳介ノ容貌の耳幅ハ第4表ニ示ス如クデアル。

側別：各年齢別ニ於ケル左右ノ平均値ハ右側ニ於テ大デアル。250耳平均値ノ比較ヲ觀察スルニ右側  $37.40 \pm 0.060$ 、左側  $36.56 \pm 0.055$  ニシ

第4表 容貌の耳幅

年 齢	耳數	右 側	$\sigma$	左 側	$\sigma$	右側+左側	$\sigma$
19歳以下	21	$36.36 \pm 0.572$	2.61	$35.24 \pm 0.503$	2.27	$35.32 \pm 0.381$	1.74
20-29歳	50	$36.66 \pm 0.405$	3.00	$36.59 \pm 0.399$	2.79	$36.63 \pm 0.285$	2.01
30-39歳	61	$36.40 \pm 0.477$	3.73	$35.41 \pm 0.410$	3.20	$35.91 \pm 0.315$	2.46
40-49歳	56	$37.27 \pm 0.347$	2.63	$36.50 \pm 0.371$	2.80	$36.89 \pm 0.254$	1.90
50-59歳	29	$38.26 \pm 0.838$	4.52	$37.60 \pm 1.021$	5.41	$37.93 \pm 0.665$	3.58
60歳以上	33	$39.42 \pm 0.503$	2.85	$38.12 \pm 0.636$	3.65	$38.77 \pm 0.406$	2.33
合 計	250	$37.40 \pm 0.060$	0.95	$36.56 \pm 0.055$	0.87	$36.98 \pm 0.041$	0.64

テ、 $M_1 \sim M_2 > 3\sqrt{m_1^2 + m_2^2}$  ナル故ニ容貌の耳幅ハ右側ニ於テ大デアルト言ヒ得ル。

年齢差：各年齢ニ於ケル兩側ノ平均値カラ見レバ20-29歳ノ場合ヲ除キ、年齢ノ上昇スルニ從ヒ、數値ハ大トナル。統計學的ニ之ヲ比較スルニ  $M_1 \sim M_2 < 3\sqrt{m_1^2 + m_2^2}$  ナル故ニ年齢的ニ意義ヲ認メナイ。

次ニ容貌の耳幅ノ側別及ビ年齢別ニ於ケル最大値並ニ最小値ヲ示セバ第5表ノ如クデアル。

第5表 容貌の耳幅ノ最大最小

側 別 最大小 年齢別	右 側	左 側	右側+左側
	最大-最小	最大-最小	最大-最小
19歳以下	40.5-32.0	40.0-31.5	40.5-31.5
20-29歳	42.0-29.5	45.5-30.0	45.5-29.5
30-39歳	46.0-26.0	43.0-29.0	46.0-26.0
40-49歳	44.0-32.0	47.5-31.0	47.5-31.0
50-59歳	44.5-27.0	45.5-29.0	45.5-27.0
60歳以上	44.5-34.5	43.5-29.5	44.5-29.5
總 括	46.5-27.0	47.5-29.0	47.5-27.0

更ニソノ左右ニ於ケル大小ヲ比較スルニ左>右88名即チ  $35.2\% \pm 3.02\%$ 、左=右22名即チ  $8.8\% \pm 1.79\%$ 、左<右56.0% $\pm 3.14\%$ デアル。

**第3項 形態の耳長**

D氏結節ノ缺除シタモノハ計測不能デアツタ

第6表 容貌の耳幅ノ側別ノ差

側別ノ 大小 年 齢	左>右	左=右	左<右
	19歳以下	3	4
20-29歳	22	4	24
30-39歳	24	4	33
40-49歳	20	4	32
50-59歳	10	4	15
60歳以上	9	2	22
合 計	88	22	140
百分率	$35.2\% \pm 3.02\%$	$8.8\% \pm 1.79\%$	$56.0\% \pm 3.14\%$

故ニ左耳195、右耳208ニ就テ計測シタ。ソノ數値ハ左耳ニ於テハ  $29.63 \pm 0.242$ 、右耳  $30.76 \pm 0.221$ 、兩耳ニ於ケル平均値ハ  $30.17 \pm 0.164$  デアツタ。

**第4項 形態の耳幅**

形態の耳幅ハ第7表ニ示ス如クデアル。

側別：左右兩側ノ平均値ヲ比較スルニ統計學的ニ左側ノ形態の耳幅ハ右側ノソレニ比シ大デアル。年齢別ヨリミレバ一般ニ年齢ノ上昇ト共ニ形態の耳幅ノ増大ヲ知ルガ、比較値ノ算定ヨリミルト有意デナイ場合モアル。

年齢差：各年齢ニ於ケル兩側ノ平均値ノ上カラ觀察スレバ19歳以下ト20-29歳、30-39歳ト

第7表 形態的耳幅

年 齡	耳數	右 側	$\sigma$	左 側	$\sigma$	右側+左側	$\sigma$
19歳以下	21	51.36±0.881	3.99	51.81±0.767	3.58	51.59±0.645	2.95
20—29歳	50	52.48±0.662	4.68	54.76±0.688	4.87	53.62±0.479	3.39
30—39歳	61	53.40±0.426	3.32	53.57±0.485	3.84	53.49±0.325	2.54
40—49歳	56	55.02±0.482	3.68	57.11±0.446	3.36	56.06±0.333	2.49
50—59歳	29	58.60±0.683	3.69	58.57±0.508	4.02	57.68±0.425	2.29
60歳以上	33	56.76±0.455	2.55	58.07±0.812	4.66	57.42±0.567	3.25
合 計	250	54.23±0.253	4.00	55.63±0.260	4.11	54.93±0.182	2.88

40—49歳、40—49歳ト50—59歳トノ間ニ年齢ノ高キニ從ツテ形態的耳幅ノ大ナルヲ認メル。

次ニ形態的耳幅ノ年齢別並ニ側別ニ於ケル最大値並ニ最小値ヲ示セバ第8表ノ如クデアル。

第8表 形態的耳幅ノ最大最小

側 別 最大小 年齢別	右 側	左 側	右側+左側
	最大—最小	最大—最小	最大—最小
19歳以下	58.5—44.5	57.5—45.5	58.5—44.5
20—29歳	65.0—41.0	64.5—43.0	65.0—41.0
30—39歳	60.0—43.0	61.0—43.0	61.0—43.0
40—49歳	63.5—49.0	64.5—50.0	64.5—49.0
50—59歳	66.5—50.0	67.5—48.5	67.5—48.5
60歳以上	67.0—53.0	71.0—51.0	71.0—51.0
總 括	67.0—41.0	71.0—43.0	71.0—41.0

第9表 形態的耳幅ノ側別ノ差

側別ノ 大小 年 齡	左>右	左=右	左>右
	19歳以下	11	0
20—29歳	32	3	15
30—39歳	38	8	15
40—49歳	34	4	18
50—59歳	21	3	5
60歳以上	23	3	7
合 計	159	21	70
百分率	63.6% ±3.44%	8.4% ±1.76%	28.0% ±2.84%

更ニソノ左右ニ於ケル大小ヲ比較スレバ第9表ノ如ク、左>右ハ159名即チ63.6%±3.44%、左=右ハ21名即チ8.4%±1.76%、左<右ハ70名即チ28.0%±2.84%デアル。

## 第5項 容貌的耳指數

容貌的耳指數ハ第10表ニ示ス通りデアル。

第10表 容貌的耳指數

側 別 年 齡	右 側	左 側	右側+左側
19歳以下	57.45±0.521	56.28±0.542	56.87±0.375
20—29歳	57.64±0.496	57.36±0.472	57.50±0.343
30—39歳	57.30±0.456	55.19±0.485	56.25±0.336
40—49歳	56.49±0.501	54.62±0.523	55.56±0.365
50—59歳	56.52±0.471	54.89±0.511	55.71±0.347
60歳以上	57.70±0.508	55.60±0.486	56.65±0.354
平 均	57.18±0.202	55.66±0.207	56.42±0.142

年齢別ニ於テハ特別ノ關係ヲ認メナイガ、右側ノ指數ハ左側ニ比シテ大デアル。右側ト左側ノ各平均値ヲ比較スルニ統計學的ニ右側ノ容貌的耳指數ハ大ナリト言ヒ得ル。

## 第6項 形態的耳指數

ソノ數値ハ

右側 176.30±1.576

左側 187.75±1.863

兩側平均 182.02±1.215

ニシテ、左側ハ右側ニ比シテソノ數値ハ大デ

アル。

第7項 耳基耳長指數

耳基耳長指數ハ第11表ニ示ス通りデアル。

年齢別ニ於テハ特別ノ關係ヲ認メナイガ、左側ノ指數ハ右側ニ比シ、30—39歳ノ場合ヲ除キ

第11表 耳基耳長指數

側別 年齢	右側	左側	右側+左側
19歳以下	81.15±0.438	82.74±0.456	81.953±0.318
20—29歳	82.52±0.471	85.84±0.396	84.180±0.306
30—39歳	84.05±0.389	83.48±0.372	83.77 ±0.269
40—49歳	83.39±0.403	85.46±0.377	84.42 ±0.276
50—59歳	83.62±0.472	85.50±0.456	84.56 ±0.329
60歳以上	83.08±0.443	84.69±0.451	83.89 ±0.310
平均	82.92±0.178	84.99±0.171	83.97 ±0.124

大デアル。右側及ビ左側ノ平均値ヲ比較スルニ統計學的ニ左側ノ耳基耳長指數ハ右側ニ比シ大ナリト言ヒ得ル。

第8項 D 氏 結 節

D 氏結節ノ各型ノ年齢別及ビ側別ヨリミタ分布ハ第12表ニ示ス通りデアル。

年齢別ニ各型ノ現レル數ヲ觀察スルモ、特別ノ關係ヲ認メナイ。

側別ニミルニ I, II, IV, V 型ハ左右ノ頻度ニ意義ヲ認メナイガ、III 型ハ右側ニ、VI 型ハ左側ニ多イ。

第12表 D 氏 結 節

側面 年齢別	右側						左側						側						側					
	I	II	III	IV	V	VI	I	II	III	IV	V	VI	I	II	III	IV	V	VI	I	II	III	IV	V	VI
19歳以下	1	1	4	6	6	3	1	0	4	3	11	2	2	8	9	17	5	1	1	8	9	17	5	114
20—29歳	0	0	15	14	8	13	1	1	8	9	10	21	21	23	23	18	34	1	1	23	23	18	34	114
30—39歳	3	1	13	19	15	10	2	0	2	26	19	12	12	45	34	34	22	1	1	15	45	34	22	114
40—49歳	0	0	16	16	11	13	0	0	6	21	11	18	18	37	22	22	31	0	0	22	37	22	31	114
50—59歳	2	1	10	4	9	3	0	1	6	6	7	9	9	10	16	16	12	2	2	16	10	16	12	114
60歳以上	1	0	5	18	6	3	0	0	3	8	15	7	7	26	33	33	10	1	0	8	26	33	10	114
合計	7	3	63	77	55	45	4	2	29	73	73	69	69	150	128	128	114	11	5	92	150	128	114	114
百分率	2.8%	1.2%	25.2%	30.8%	22.0%	18.0%	1.6%	0.8%	11.6%	29.2%	29.2%	27.6%	27.6%	3.00%	25.6%	25.6%	22.8%	2.2%	1.0%	18.4%	3.00%	25.6%	22.8%	22.8%
百分率ノ 平均誤差	±1.04	±0.69	±2.75	±2.92	±2.62	±2.43	±0.79	±0.56	±2.03	±2.88	±2.88	±2.83	±2.83	±2.05	±1.95	±1.95	±1.88	±0.66	±0.45	±1.73	±2.05	±1.95	±1.88	±1.88

第13表 D氏結節ノ出現側

D氏結節	面側共存 在スルモ ノ	兩側共缺 除スルモ ノ	一側ニ存在スルモノ		
			右側	左側	合計
人員數	168	32	39	11	50
百分率	67.2%	12.8%	15.6%	4.4%	20.0%
平均誤差	±2.97%	±2.11%	±2.29%	±1.30%	±2.55%

次ニD氏結節ノ出現側ニ就キミレバ第13表ノ如ク、D氏結節兩側共存スルモノ最モ多數、一側ニソノ存在ヲ認メルモノニ次ギ、兩側共缺除スルモノハ最モ少イ。

第9項 耳朶ノ形態

耳朶形態ノ分類、即チ第I型(遊離型)、第II型(癒着型)ノ頻度ハ第14表ニ示ス通りデアルガ、共ニ第II型ノ頻度大デ、殊ニ左側ニ於テ

第14表 耳朶形態ノ分類

耳朶ノ 分數	右側		左側		右側+左側	
	耳數	百分率	耳數	百分率	耳數	百分率
I	109	43.6%±3.14%	99	39.6%±3.09%	208	41.6%±2.20%
II	141	56.4%±3.14%	151	60.4%±3.09%	292	58.4%±2.20%

著シイ。

現状態ハ第15表ニ示ス通りデアル。

耳朶形態ノ第I型、第II型ノ兩側ニ於ケル出

第15表 耳朶形態ノ出現側

耳朶型態	兩側共 第I型	兩側共 第II型	片側ニ形態異ル場合		
			右I型 左II型	右II型 左I型	合計
人員數	88	130	19	13	32
百分率	35.2%	52.0%	7.6%	5.2%	12.8%
平均誤差	±3.02%	±3.16%	±1.55%	±1.41%	±2.11%

第4章 總括並ニ考察

第1項 容貌的耳長

容貌的耳長ハ人類學上ノ一特徴トシテ、從來諸家ノ注目シタ所ニシテ、諸人種ニ關スル業績ハ頗ル多イ。

今 Martin ノ記載セル各人種ニ於ケル容貌的耳長ノ成績ヲ摘録スレバ次ニ示ス通りデアル。

(但シ成人男子ニ於ケル)

Rasse	Länge	Author
1) Hottentotten	49.0	Schwalbe
2) Buschmänner	52.0	Karutz
3) Singhalesen	53.0	//
4) Jakoma	53.7	Girard
5) Mawambi-Pygmäen	55.0	Czekanowski
6) Neger in allgemeinen	59.0	Karutz

7) Südamerikanische Indianer	60.0	Ehrenreich
8) Papua	60.5	Karutz
9) Deutsche	60.5	Schwalbe
10) Mikronesier	61.0	Karutz
11) Rumänen	61.6	Pittard
12) Grossrussen	61.4	Worobjow
13) Polynesier	62.2	Karutz
14) Amerikaner (div. Gruppen)	63.0	//
15) Aegypter der Kharga Oase	63.0	Hrdlikka
16) Buriaten	63.3	Schendrikowski
17) Europäer in allgemeinen	63.9	Karutz
18) Malayen	64.5	//
19) Osseten	64.8	Giltschenko
20) Schoschoni	65.2	Boas
21) Semiten	66.0	Karutz
22) Orang-Kubu	66.1	Hagen
23) Kalmücken	66.8	Koroljow
24) Eskimo	67.5	Duckworth
25) Aino	68.5	Sakaki
6) Mongolen	70.5	Karutz
27) Tlinkit-Indianer	71.0	Schwalbe
28) Patagonier	75.0	//

本邦 = 於テハ丸山氏ハ臺灣人成人男子ノ容貌の耳長ハ左耳 60.50, 右耳, 60.86 又同氏ノ臺灣高砂族 = 於ケル平均値ノ算定ハナイガ, 53—67ノ間 = アリトシ, 内田氏ハ支那人 = 於テ52—80在支日本人57—73デアツタト報告シテキル。日本人成人 = 就テノ報告ハ極メテ尠ク, 東海林氏ハ20歳乃至24歳ノ壯丁 = 於テハ容貌の耳長ノ平均ハ62ナリト言ヒ, 尙宮島氏ノ九州日本人ノソレハ  $62.80 \pm 0.527$  ナリトノ報告アル = 過ギナイ。

扱テ山西支那人 = 於ケル 余ノ成績ハ  $65.43 \pm 0.092$  = シテ, 前述セル 各人種 = 就テノ成績ヨリミレバ, 余ノ數値ハ Schoschoni ト Semitenノ間 = アリ。且ツ東海林, 宮島氏ノ日本人ノ數値 = 比較スレバ大デアル。而シテ山西支那人ノ數値ハ Mongolen ト日本人トノ略中間 = アリ。被檢民族ノ人種的系統ト對比シ, ソノ移動過程ヨリ考察スレバ興味アルモノト思ハレル。

次 = 容貌の耳長ノ側別ノ大小 = 就テ Godinハ佛國人小兒ノ統計ハ89%, 成人ノ統計ハ79%

左側ハ大デアルト云ツテキル。宮島氏ハ九州日本人小兒並 = 成人 = 於テノ成績ハ特別左右差ヲ示スモノハナイト云ツテキル。余ノ山西支那人 = 於テモ左右數値ノ特別ナル意義ヲ認メナイ。

更 = ソノ年齢的關係ヲ觀察スル = 東海林氏ハ5ヶ月ノ胎兒ヨリ86歳 = 至ル迄檢索シ, 男子最小36(生後1ヶ月), 最大81(14歳), 女子最小1.5(5ヶ月胎兒), 最大75(80歳)ト述ベテキルガ各年齢別ノ詳細ハ報告サレテキナイ。内田氏ハ支那人及ビ在支日本人小兒 = 於テ, ソノ容貌的耳長ハ大人ト同長ノモノ比較的多シト雖モ, 12歳以下ノ幼兒ノ耳介ハ概シテ短小ナリト云ツテキル。河村氏ハ7歳—14歳迄ノ北陸小兒ノ容貌的耳長ヲ測定シ, 各年齢間 = 數理的差異ヲ認メナイガ, 一般 = 年齢ノ上昇ト共 = ソノ數値ハ大トナル。併シ諸年齢間ノ差異ハ頗ル僅少ナリト記載シテキル。宮島氏ハ九州日本人小兒6歳ヨリ14歳 = 至ル容貌的耳長ノ測定 = 際シ, 一般 = 各年齢間ノ差異ハ明カデナイガ, 只僅 = 10—11歳ノ間 = 差異ヲ認メルト云ツテキル。以上ノ記載ヨリ見ル = 容貌的耳長ノ小兒期, 殊 = 學齡期以後 = 於ケル 成長ハ極メテ 僅微ナモノノ様デアル。成年期 = 入リテノ容貌的耳長ノ變化 = 就テハ從來顧ミラレナカツタ。余ノ統計 = 於テハ各10年毎ノ年齢別 = 於テ, 年齢ノ上昇ト共 = 容貌的耳長ノ増大ヲ認メ, 數學的 = モ證明シ得ル場合モアル。成人 = 於ケル容貌的耳長 = 就キ言及シテキル文獻ハ Unterelsässer = 於ケル Schwalbe = 過ギナイ。之ト余ノ山西支那人 = 於ケルモノト比較スレバ

Rasse	nach Schwalbe Unterelsässer	nach Toyota Shansi-Chinese
Zahl	215	250
19I.j.以下	—	62.95
20—29Lj.	60.3	63.68
30—39Lj.	63.7	63.85
40—49Lj.	63.4	66.41
50—59I.j.	65.9	68.10
60—69Lj.	67.4	68.44
70—79I.j.	70.1	

即チ Schwoalbe ノ成績ハ50歳以後 = 於テ特 =



増大スル。山西支那人ニ於ケル余ノ成績ハ40歳以上ニ於テ特ニ増大スルヲ認メル。此ノ如キ40—50歳以後ノ容貌の耳長ノ増大ハ耳介捲縮ノ平面化及ビ耳翼外皮ノ弾力性ノ減少ニ起因スルモノノ様デアアルガ、更ニ多數ノ觀察並ニ各種年齢別ノ耳介ノ組織學的檢索ト相俟ツテ闡明セラルベキモノデアラウ。

尙被檢人員ノ容貌の耳長ノ最大最小ハ83.0—53.0デアツタ。東海林氏ハ男子36—81、丸山氏ハ臺灣高砂族ニテ成人男子51—76、臺灣人成人男子53—67、内田氏ノ支那人ニテハ成人男子52—80、在支日本人成人男子57—73ト報告シテキル。Binder, Schäfferハ歐洲人ノ正常耳ト異常の大耳トノ限界ヲ70トシテキルガ、余ノ檢索シタ所デハ相當多數ニ認メタ。本邦ニ於テ異常の大耳トシテ松村氏及ビ杉原氏ノ報告ガアル。松村氏ハ北海道ニ於テ耳介長徑75mm幅徑45mmノ12歳ノ1ヶ月ノ男兒ヲ經驗シテキル。杉原氏ハ福井縣ニ於テ耳介最大直徑右側92mm、左側82mm、耳介最大幅徑右側45mm左側43mm、耳底長徑右側83mm、左側72mmノ79歳男子ノ1例ヲ報告シテキル。余ノ遭遇シタ最大耳ハ容貌の耳長83mmノモノニシテ杉原氏ノ症例ニ及バナイガ比較的稀有ノモノト思ヒ計測數値ヲ參考ノ爲記載スル。

姓名 胡有福 ♂ 72歳

山西省忻縣樊家野場住人

	左側	右側
容貌の耳長	83.0	7.90
容貌の耳幅	39.0	44.0
形態の耳長	33.0	35.0
形態の耳幅	71.0	67.0
容貌の耳指數	46.99	44.30
形態の耳指數	215.12	191.43
耳基耳長指數	85.54	84.81
D氏結節	第V型	第V型
耳朶形態	第II型	第II型

耳科學の所見 鼓膜ハ兩側共中等度溷濁ヲ呈シテキルガ聽力ハ障礙ナイモノノ様デアアル。本例ニ於テ末端異常肥大症ノ症候、或ハ精神病ノ症候、白痴、變質の徵候ハ認メナカッタ。

## 第2項 容貌的耳幅

容貌的耳幅モ耳長ノ如ク人種的ニ差異ガアルト云ハレテキル。

今 Martin ノ記載セル各人種ニ於ケル容貌的耳幅ノ成績ヲ摘録スレバ次ニ示ス通りデアアル。(但シ成人男子ニ於ケル)

Rasse	Breite	Autor
1) Orang-Kubu	26.9	Hagen
2) Eskimo	31.1	Duckworth
3) Grossrussen	32.8	Worobjow
4) Lothlinger	34.5	Wilholmi
5) Baschkiren	35.0	Weissenberg
6) Jakoma	35.1	Girard
7) Rumänen	35.3	Pittard
8) Deutsche (Hamburg)	35.5	Karutz
9) Mawambi-Pygmäen	36.0	Czekanowski
10) Aino	36.4	Sakaki
11) Aegypter der Kharga Oase	37.0	Hrdlicka
12) Buriaten	37.6	Porotoff
13) Kalmücken	38.6	Koroljow
14) Elsässer	39.1	Schwalbe

本邦文獻ニ現レタ所ヲ記載スレバ東海林氏ノ5ヶ月胎兒ヨリ86歳ニ至ル迄ノ耳介測定ニ於テ男子最小18(1ヶ月)ヨリ33(68歳)、女子最小7(5ヶ月胎兒)最大3.3(78歳)ニシテ21歳乃至24歳ノ壯丁ノ平均値ハ25ナリト稱シテキル。丸山、内田兩氏ノ報告ハ平均値ヲ算定シテキナイガ、丸山氏ハ臺灣高砂族成人男子ニ於テ形態的耳幅ハ30—39、臺灣人成人男子ニ於テ30—37ナリト記載シ、内田氏ハ支那人成人男子ニ於テ24—43、在支日本人男子ニ於テ30—45デアツタト述ベテキル。宮島氏ハ九州日本人男子成人ニ於テ  $32.50 \pm 0.272$  ノ測定値ヲ記載シテキル。

扱テ山西支那人ニ於ケル余ノ容貌的耳幅ノ測定値ハ  $36.98 \pm 0.041$  ニシテ、日本人ニ就キ調査シタ東海林、宮島氏ノ數値ニ比シ遙ニ大デアアル。而シテ之ヲ諸人種ノ測定値ト共ニ觀察スレバ Aino ト Aegypter der Kharga Oase ノ間ニアリ。一般ニ容貌的耳幅ニ關スル人類學的ノ説明ハ頗ル貧弱デアリ、又從來日本人ノ爲支那人ニ關聯シタ人種ノ該耳幅ノ計測ハサレテキナイ

ノデ考察ヲ下スコトハ出來ナイガ、Aino ノ數値ニ近似シテキルノハ興味アル所デアラウ。

側別ノ大小ニ就テ余ノ檢索ニヨレバ右側ハ左側ニ比シ大ナリト言ヒ得ルガ、宮島氏ハ九州日本人ノ計測ニ於テハ左右ノ差ヲ見出シ得ズト云ツテキル。側別ノ大小ニ關スル統計ノ材料ハ尠ク、將來言及シ得ル機會モアラウト信ズル。

年齢的ニ容貌的耳幅ヲ觀察シタモノニ、本邦ニ於テ九州日本人小兒ノ宮島氏、北陸日本人小兒ノ河村氏ノ業績ガアル。宮島氏ハ6歳ヨリ14歳迄ノ小兒ニ就テ、河村氏ハ7歳ヨリ14歳迄ノ小兒ニ就テノ成績ニヨレバ一般ニ年齢ノ増加ト共ニソノ數値ハ上昇スルガ、ソノ増加ハ頗ル僅少デアルト云ツテキル。尙河村氏ハ9歳ニ於テソノ發育最モ佳良ニシテ8歳ノ發育最モ遲緩セリト敘述シテキル。成人ニ就テノ測定、殊ニ年齢的檢索ヲ行ツタモノハ極メテ尠ク Unterelsässerニ於ケル Schwalbe ノ記載ノミデアル。今余ノ山西支那人ニ於ケル計測値ト對比スレバ次ノ様デアル。

Rasse	nach Schwalbe	nach Toyota
	Unterelsässer	Shansi-Chinese
Zahl	215	250
19I.j.	—	35.32
20—29L.j.	38.3	36.63
30—39L.j.	38.1	35.91
40—49L.j.	39.4	36.89
30—59L.j.	40.7	37.93
60—69I.j.	39.5	} 38.77
70—79L.j.	41.4	

即チ容貌的耳幅モ容貌的耳長ノ如ク成人ニ於テモ一般ニ年齢ノ上昇ト共ニ數値ハ大トナルモノノ様デアル。ソノ原因ハ前述セル如ク耳介捲縮ノ平面化並ニ耳介外皮ノ弾力性ノ減少ニヨルモノト推測サレル點モアルガ將來ノ研究ニヨリ明カニサレルグラウ。

容貌的耳幅ノ最大最小ハ山西支那人ニ於テハ47.5—27.0ノ間ニアリ。丸山氏ノ臺灣高砂族ニ於テ39—30、臺灣人成人ニ於テ37—30、内田氏ノ支那人ニ於ケル43—24、在支日本人ニ於ケル45—30ノ成績ニ比較スレバソノ分布ノ範圍ハ廣

大デアル。

### 第3項 形態的耳長

形態的耳長ノ測定ハ比較解剖學上興味アル所デアルガ人類ニ於テハD氏結節ノ缺除シタモノモ尠クナク、比較的重要視サレテキナイ。從ツテソノ測定ニ關スル記載モ極メテ尠イ。山西支那人ニ於ケル平均値ハ  $30.17 \pm 0.164$  ニシテ、日本人成人男子ニ於テ測定セル宮島氏ノ成績ハ  $27.96 \pm 0.476$  ニシテ、山西支那人ニ於ケル形態的耳長ハ大デアル。

### 第4項 形態的耳幅

形態的耳幅モ人類ノ種族の意義尠ク、ソノ計測ニ關スル文獻モ多クナイ。山西支那人ニ於ケル數値ハ  $54.93 \pm 0.182$  ニシテ、九州日本人成人男子ニ於ケル宮島氏ノ計測ハ  $53.32 \pm 0.555$ 、丸山氏、内田氏ノ計測ノ平均値ハ算定サレテキナイガ、臺灣高砂族成人男子ニ於テハ40—65、臺灣人成人男子ニ於テハ46—59トイフ丸山氏ノ報告、支那人成人男子ニ於テハ40—65、在支日本人ニ於テハ38—62トイフ内田氏ノ報告ガアル。余ノ山西支那人ニ於ケル最大最小ハ71.0—41.0ニシテ山西支那人形態的耳幅ノ平均値ハ九州日本人ヨリ大ニシテ、ソノ數値ノ分布範圍ヨリミレバ山西支那人ノ最大値ハ臺灣高砂族、臺灣人、内田氏ノ調査セル支那人、在支日本人ヨリ大ニシテ、最小値ハ臺灣人ニ於ケルモノヨリ小ナル外、臺灣高砂族、内田氏ノ調査セル支那人、在支日本人ヨリ大デアル。尙年齢的關係ヲ觀察スレバ河村氏ノ北陸人小兒7歳ヨリ14歳迄ノ檢索ニ於テ一般ニ年齢ノ上昇ト共ニソノ數値大デアアルガ7歳ヨリ11歳ニ至ル各年齢間ノ差異ハ頗ル僅少ニシテ11歳ヨリ14歳ニ至ル各年齢間ノ差異ハ稍著明ナリト言ヒ、且ツ13歳ノ發育ハ最モ佳良、8歳ハ最モ貧弱デアルト述ベテキル。宮島氏ハ九州日本人小兒6歳ヨリ14歳迄ノ觀察ニ於テ一般ニ年齢ノ増加ト共ニ數値ノ上昇ヲ示シテキル。尙9歳以降ニテハ明白ナル年差ヲ認メ、11歳以降ニ於テ一時發育ノ停止ヲ示シ、13歳以降發育増大ヲナシ、各年齢間ニ意義アル差ヲ示スニ至ルト敘述シテキル。併シ成人ニ於ケル形

態の耳幅ノ變化ニ關シテノ文獻ハ見出シ得ナカツタ。余ノ各10年毎ニ區分シタ數値ニヨレバ年代ノ上昇ト共ニ形態の耳幅ノ増大ヲ認メ、數學的ニモ證明シ得ル場合が多い。コノ關係モ容貌の耳長並ニ耳幅ト略同様ノ條件ニアルモノト思ハレル。

第5項 容貌的耳指數

容貌的耳指數ハ形態的耳指數ヨリモ人類學上ヨリ重要ナル指數デアルト云ハレ各人種ニ就キ攻究サレテキル。Martin ノ記載セルモノヲ摘録スルニ次ノ通りデアル。

Rasse	Physiognomischer Ohrindex	Autor
1) Aino	52.8	Sakaki
2) Baschkiren	53.0	Weissenberg
3) Grossrussen	53.5	Worobjow
4) Deutsche (Hamburger)	54.6	Karutz
5) Griechen	55.8	Pittard
6) Indianer	56.0	Karutz
7) Polnische Juden	56.2	Elkind
8) Buriaten	56.4	Porotoff
9) Bulgaren	56.6	Pittard
10) Papua	57.4	Karutz
11) Rumänien	57.5	Pittard
12) MBaka	57.5	〃
13) Kalmücken	57.7	Koroljow
14) Armenier	58.3	Chantre
15) Hottentotten	58.8	Karutz
16) Türkische Zigeuner	58.9	Pittard
17) Aegypter der Kharga Oase	58.9	Hrdlicka
18) Colorado-Indianer	59.0	Rivet
19) Melanesier	59.5	Topinard
20) Ba-Tna	59.8	Poutrin
21) Polynesier	60.0	Karutz
22) Elsässer	60.5	Schwalbe
23) Neger	61.2	Topinard
24) Neger	62.5	Karutz
25) Ba-Binga	63.0	Poutrin
26) Kurden	64.7	Chantre
27) Mawambi-Pygmäen	66.2	Czekanowski

宮島氏が九州日本人成人男子ニ就キ算定シタ指數ハ  $51.22 \pm 0.383$  ニシテ上述各人種ニ對照スレバ數値最小ナル Aino ヨリモ小デアル。余ノ

山西支那人ニ於ケル指數ハ  $56.42 \pm 0.142$  ニシテ人種的ニハ Buriaten ニ略等シク比較的小ナル數値ヲ示シテキルガ、日本人ニ比較スレバ遙ニ大デアル。數値ノ上カラ見タ日本人、Aino, Indianer, 山西支那人ハ容貌的耳指數ノ小ナル群ニ屬シテキルノヲ認メ、東方アジャ民族ノ該指數ハ一般ニ小ナノデハナカラウカ。又該指數ハ宗族發生學上興味アル所ニシテ、類人猿ニテハ該指數値高ク、而モ類人猿ハ原始性ヲ帶ビルニ從ツテ増大スル。諸學者ニヨリ算定サレタ數値ヲ摘載スレバ次ノ様デアル。

Tiere	Index	Autor
Gorilla	70.6(finks)	Duckworth
〃 (Mittel aus 2)	69.1	Topinard
〃	50.0	Koch
Schimpanse	72.7(r.) 83.0(?)	Duckworth
〃	77.2(r.) 78.3(l.)	〃
〃 (Mittel aus 3)	71.1	Topinard
〃	71.4	Koch
Orang-Utan	85.1	Topinard
〃	71.4	Koch

即チ該指數ノ上昇ハ動物ノ原始性ヲ多分ニ含ンデキル。且ツ耳外形ヨリ考ヘテモ想像出來ル。

年齢的ニ之ヲ觀察スルニ山西支那人成人ニ於テハ特別ノ差異ヲ認メナイガ、宮島氏ノ九州日本人小兒(6歳—14歳)ニ於テ一般ニ該指數値ハ幼年者ニ高ク、年長者ニ低クナル傾向ガアル、併シ秩序アル各年齢間ノ指數差ハ認メナイト云ツテキル。Daffner ハ Elsässer ニ就テノ檢索ニ容貌的耳指數ハ20歳ニ於テハ61.7, 70歳ニ於テハ58.7デアツタト言ヒ、コノ事實ハ年齢上昇ト共ニ耳長ノ増大ハ耳幅ノ増大ニ比シ大ナル爲デアルト述べ、耳長ノ小ナル初生兒ニ於ケル指數ハ成人ニ比シ大ニシテ氏ノ算出セル所ニヨレバ男子ハ73.7女子ハ73.1デアツタト稱シテキル。原始民族並ニ小兒ニ於ケル容貌的指數及ビ類人猿ニ於ケル該指數ハ共ニ高キ値ヲ示シテキルノハ注目ニ價シ、人類學上意義深キ點デアラウ。

第6項 形態的耳指數

形態的耳指數ハD氏結節ノ状態ニヨリ左右サ

レルコトが大デアリ、又耳朶ノ形態即チ耳朶ノ癒着乃至ハ遊離型トノ關係モ考慮セラレ人類ニ於ケル該指數ノ動搖ハ個人的ニモ非常ナ差異ヲ示スモノデアル。Martin ハ Elsässer 男子デハ 83.7—195.5, 女子デハ 97.3—189.5 ノ動搖ガアリ形態的耳指數ノ如何ヲ以テ人種の動向ヲ察スルノハ疑問トスルト述ベテキル。前述シタ耳朶ノ状態ニヨリ形態的耳幅ノ數値ノ動搖モ著シク Worobjew ハ Grossrussen = 就テ算出シ癒着型ニ於テハ 146.5, 遊離型ニ於テハ 133.1 ト云ツテキル。又各種族ノ平均値ハ Bayern = テハ 122.5 Kalmücken = テハ 140.6 Aino ノ ♂ 171.5 ♀ 169.3 ト算出サレテキル。余ノ山西支那人ニ於ケル該指數ノ平均値ハ  $182.02 \pm 1.215$  ニシテ宮島氏ノ九州日本人ニ於ケル該指數  $191.70 \pm 1.960$  ニ比シ稍小ナリ。形態的耳指數ノ重要ナル意義ハ D 氏結節ノ著明ニ發達シテキル各種動物間ノ關係ニシテ、宗族發生學上關心ヲ持タレテキル。Schwalbe ノ各種動物ニ就キ 調査シタ成績ヲ列記スレバ次ノ様デアル。

Tiere	Morphologischer Ohrindex
1) <i>Lepus cuniculus</i>	21.3
2) <i>Antilope leucoryx</i>	27.6
3) <i>Sus scrofa</i>	35.4
4) <i>Felis catus dom</i>	58.8
5) <i>Lemur macaco</i>	76.0
6) <i>Cynocephalus babuin</i>	84.0
7) <i>Macacus rhesus</i>	93.0
8) Schimpanse	105—107
9) Orang-Utan	122
10) Gorilla	125
11) Homo	130

即チ下等動物ヨリ進化セル動物ニ進ムニ從ツテ大トナリ、人類ニ至ツテ最大値ヲ示ス。

### 第7項 耳基耳長指數

本指數ハ耳介ノ最長徑ト耳介底部ノ増大ノ關係ヲ觀察シ得ルモノデアルガ、人類學的或ハ宗族發生學上ノ興味ハ尠ク、本指數ニ就テノ成績ニ言及シタモノハ極メテ尠イ。宮島氏ノ九州日本人ニ於ケル成人男子ノ數値ハ  $83.90 \pm 0.224$  ニシテ、ソノ小兒(6—14歳)ニ就テノ數値ニ於テ

ハ各年齢ニ於ケル秩序アル差異ハ認メラレナイト云ツテキル。余ノ山西支那人ニ於ケル該指數ハ  $83.97 \pm 0.124$  ニシテ、宮島氏ノ九州日本人ノ成績ニ略一致スル。年齢の關係ニ於テモ19歳以下ニ於テソノ數値ハ小デアルガ、ソノ後ノ年代ニ於ケル數値ニ一定ノ増減ヲ認メナイ。即チ耳基耳長指數ハ人類學的或ハ宗族發生學的ニ大ナル意味ハナイモノノ様デアル。又容貌的耳長ト形態的耳幅ノ年齢ニヨル増大ノ比率ハ略同程度ノモノデアラウト考ヘラレル。

### 第8項 Darwin 氏結節

耳輪後上部ノ遊離縁ニ存在スル D 氏結節ハ耳輪ノ形態學上ハ勿論、人類學上並ニ宗族發生學上ノ要點デアル。之ハ Darwin, Woolner = ヨリ始メテ注意サレタモノデ、各種動物殊ニ進化シタ高等猿類ニ至ル迄存在シ、只人類ニ於テノミ缺除シタモノ多數ニアルコトヨリシテ人類ニテハ退化變性遺物トシテ取り扱ハレテキル。人類ニ於ケル D 氏結節ハ胎生時ニ於テハ殆ンド之ヲ具備シテキルモノノ様デ、Schwalbe ハ胎生5—6ヶ月ニ於テハ一般ニ胎兒耳介ニ D 氏結節存在シ所謂 Makakusform 又ハ Zercopithecusform トシテ認メラレルト云ツテキル。Schäffer ハ胎生3ヶ月ノ%迄ハ胎兒耳介ノ總テハ D 氏結節ヲ有シ、4ヶ月ニ於テハ81%、8ヶ月ヨリ出生ニ至ル間ハ36—40%ニ著明ニ現レテキルト記載シテキル。而シテ氏ハ D 氏結節ハ胎生期ノ遺殘物デアルト述ベテキル。Meyer 等ハ D 氏結節ハ形態學的或ハ宗族發生學的ニ重大ナ意義ヲ有セズ、該結節ハ耳輪縁後上部不規則ナ鋸齒狀ノ遊離縁ノ一部ニ過ギナイモノデアルト反駁シテキタガ、Schwalbe, Schäffer ノ胎生期ニ於ケル檢索ハ D 氏結節ノ成因ヲ明カニシタモノニシテ、現在本結節ハ人類ニ於テハ宗族發生學上ノ退化性現象ノ一部トシテ疑フ餘地ハナイ。併シ Meyer ノ指摘シタ如ク人類耳介耳輪縁ニ D 氏結節ニ類似セル隆起ガアル。之ハ耳輪ノ頂點ニ存在シ、之ヲ Schwalbe 氏頂尖ト稱シテキル。D 氏結節ト明カニ區別サレネバナラナイ。

余ハ D 氏結節ヲ Schwalbe ノ分類法ニ從ツテ

検索シタモノニシテ之ヲ先人ニヨリ調査セラレタ成績ト比較スレバ第16表ニ示ス通りデアル。

即チ山西支那人ハ他人種ニ比較シ第I型ハ比較的の多ク、第II型ハ極メテ少ク、第III型ノ頻度ハ最モ大ニシテ、第IV型ハ稍大、第V型モ

比較的大デアルガ第VI型ハソノ出現率ハ小デアル。宮島氏ノ九州日本人ニ於ケル比率ヨリ見レバ山西支那人ノD氏結節ハ日本人ニ比シ第I、第III、第IV、第V型ハ多ク、第II、第VI型ハ少イ。

第16表 Darwin 氏結節ノ人種的差異

人種	性	耳數	I	II	III	IV	V	VI	報告者
Elsässer	♂	14	4.2	19.7	12.0	20.4	22.5	21.2	Schwalbe
	♀	128	1.6	1.6	8.6	9.4	9.4	69.5	
Aino	♂	140	3.6	0	3.6	11.4	40.7	40.7	Sakaki
	♀	260	3.9	0	1.6	13.4	38.5	42.6	
支那人 (大人)	♂	648	1.3	8.9	15.8	32.5	14.2	27.3	内田
	♀	260	0.5	5.1	6.6	21.1	21.7	45.0	
支那人 (小供)	♂	160	0.2	12.1	5.2	46.2	10.3	26.0	"
	♀	80	0.2	7.3	7.6	29.3	18.9	36.7	
在支日本人 (大人)	♂	298	0.9	10.7	14.6	25.2	24.5	24.1	"
	♀	202	0.2	7.8	7.5	27.2	19.8	27.5	
在支日本人 (小供)	♂	160	0.4	11.3	13.5	26.1	10.8	27.9	"
	♀	80	0.5	8.6	8.1	31.5	18.7	32.6	
在支白人 (大人)	♂	?	2.5	14.8	10.9	23.8	13.8	34.2	"
	♀	?	0.8	8.1	8.8	16.2	13.5	53.4	
在支白人 (小供)	♂	?	0.9	12.7	12.1	11.3	19.3	43.7	"
	♀	?	0.6	8.7	9.3	13.8	14.3	53.3	
九州日本人	♂	5460	0	18.0	0.1	22.0	11.3	48.7	宮島
	♀	3800	0	16.9	0.1	20.6	8.4	53.9	
山西支那人	♂	500	2.2	1.0	18.4	30.0	25.6	22.8	豊田

更ニD氏結節ノ著明ナル第I、第II、第III型ノ比率ヲ列記スレバ Engländer 55%, Elsässer ♂ 35.9% ♀ 11.8%, Sachsen ♂ 32.8% ♀ 13.1%, Grossrussen 13.5%, Italien (Tupin) ♂ 3.5% ♀ 3.0%, Ungaren (Budapest) ♂ 3.0% ♀ 0.8%, Aino ♂ 7.2% ♀ 5.5% Kalmücken 3.7%, 在支白人大人 ♂ 28.2%, ♀ 16.9%, 小供 ♂ 25.7%, ♀ 18.6%, 支那人大人 ♂ 26.0%, ♀ 8.2%, 小供 ♂ 17.5%, ♀ 15.1%, 在支日本人大人 ♂ 26.2%, ♀ 15.5%, 小供 ♂ 25.2%, ♀ 17.2%, 九州日本人 ♂ 18.1%, ♀ 16.3%, 余ノ山西支那人

ニ於テハ 21.6% デアル。歐洲人ニ於テハ地方的ニ大ナル差異ガアリ、性別的ニモ可ナリ大ナル懸隔ガアル。又原始ニ近イ Senoni ニ於テハ第I、第II型ハ全ク存在セズ、第IV、第V型出現ノ頻度ハ大デアル。Orang Kubu ハ全クD氏結節ヲ缺除シ、Melanesier ハ 40.8%, Andamanen ハ ♂ 38% ♀ 40% Ostasiaten ハ 25%, Zentralafrikanischen Neger ハ 12% Hottentotten ハ 6% ニシテ各人種ニヨリ數値ノ差ハ大デアル。即チ人類ニ於テD氏結節ノ形態、或ハソノ出現如何ヲ以テ文化ノ程度ヲ律スルコトハ出來ナイ。

併シ人種の=出現率ハ一定シ、種族的分別ノ意義ヲ有シ、且ツ動物ノ耳ニハ終生D氏結節ヲ止メテキル所ヨリ觀察スレバ宗族發生學の檢索ニハ注目サルベキモノデアラウ。

### 第9項 耳朶ノ形態

耳朶ハ動物界ニハ缺除シ、人類ニノミ見ラレルモノデアルガ、宗族發生學上 Schimpanse =モ既ニ僅微ナ耳朶ノ形成ヲ見ラレルコトガアル。又人類ニ於テハ胎生第3ヶ月ニ之ガ認めラレル。進化學上屢々議論サレタ所デ先人ノ各人種ニ就キ攻究シタ成績ヲ摘載スレバ次ニ示ス如クデアル。(Martin =ヨル)

Fehlendes oder angewachsenes Ohrläppchen

1) Polynesier	15.0%	9) M'Baka	30.0%
2) Bayern	20.0%	10) Grossrussen	35.4%
3) Philippinos	23.0%	11) Neger	36.7%
4) Aino	23.4%	12) Baschkiren	41.9%
5) Deutsche	25.3%	13) Lappländer	50.0%
6) Italiener	26.5%	14) Kalmücken	56.2%
7) Mikronesier	27.2%	15) Ba-Tua	58.0%
8) Papua	29.0%	16) Ba-Binga	70.0%

本邦ニテハ東海林氏ハ日本人ニ就キ3種ニ類別シ、懸垂型、水平型及ビ緊張型ニ分類シ、懸垂型トハ耳朶豊カニ下垂スルモノニシテ、37%水平型トハ耳朶下端一直線ニ水平ヲナシ耳朶殆ンド無キモノニシテ36%ヲ有シ、緊張型トハ耳朶全ク缺除シ緊張狀ニ頰部ニ附着スルモノニシテ26%ヲ示シタト述ベテキル。内田氏ハ是等ヲ10種ニ細別シテキルガ、大別シテ第I類ヲ遊離セル耳朶、第II類ヲ癒着セル耳朶トナシ、第I類日本人大人男性ニ於テ59.06%、同女性ニ於テ56.44%、小兒男性ニ於テ64.71%、同女性ニ於テ54.67%アリ、第II類ハ日本人大人男性40.94%、同女性43.56%、小兒男性35.29%、同女性45.24%、在支白人ニ就テノ頻度ハ第I類ハ大人男性88.89%、同女性75.00%、小兒男性50.0%、同女性100%、第II類ハ大人男性11.11%、同女性25.0%、小兒男性50.0%、女性ハ之ヲ缺除シテキル。支那人ニ就テノ成績ハ第I類大人男性71.91%、同女性68.47%、小兒男性76.25%、同女性60.0%、第II類ハ大人男性28.09%、

同女性31.53%、小兒男性23.75%、同女性40.0%、丸山氏ハ臺灣高砂族ニ就テ觀察シタ成績ハ遊離セル耳朶、即チ第I類ハ大人男性ニテハ47.058%、同女性ニテハ58.536%、小兒男性ニテハ63.636%、同女性ニテハ54.098%、癒着セル耳朶、即チ第II類ハ大人男性ニテハ52.941%、同女性ニテハ41.463%、小兒男性ニテハ36.363%、同女性ニテハ45.90%、西氏ハ九州人兒童ノ耳朶形態ノ調査ヲナシ遊離型39%、癒着型61%ニ認メタト記述シテキル。而シテ余ノ山西支那人ニ於ケル成績ハ第I型41.6%±2.20%、第II型58.4%±2.20%ニシテ近接民族ニ比シ内田氏ノ調査シタ支那人ノ頻度ヲ除キ略近似ノ數値ヲ示シテキル。一般ニ白人系並ニPolynesier、Mikronesier等ニハ遊離型耳朶多ク、東方アジヤ系即チ蒙古系人種群ニテハ癒着型耳朶ノ出現頻度ガ多イモノノ様デアル。

### 第10項 山西支那人耳介ノ

#### 人類學的考察

耳介ノ種族的特徵ニ就テハ古來諸家ニヨリ研究サレタ所デアリ、耳介ノ機能等ヨリ考察シ文化ノ進歩ト共ニ耳介ハ漸次退化シ、耳介ノ形態ヨリ文明ノ程度ヲ察知シ得ルト稱シ歐洲白人ハ卵圓形ノ耳介ヲ有シ耳介ノ退化ハ他人種ニ比シ高度ナリトシ、ソノ卓越セルヲ信ジテキタ。黑人ノ耳介ハ圓形或ハ方形、又ハ頭部ヨリ外方ニ突出スルニ過ギズトモ言ヒ是等ハ動物級ヨリ距離コト遠カラズトテ獨斷の見解ヲ加フルモノモ尠クナカツタノデアル。併シ近時ノ人類學の見地ヨリノ計測的研究、或ハ形態學の研究ニヨリ人類耳介ハ各種動物殊ニ類人猿類トノ間ニ明カニ宗族發生學の意義ヲ見出し得、又時ニ人類文化ノ程度ヲ推測シ得ルコトモアルガ、種族的特徵ヲ有スルコトハ諸家ニヨリ認めラレタ所デアル。余ハ山西支那人ノ耳介ノ計測ヲナシソノ人類學の知見ヲ求メ各種計測の數値或ハ形態ヨリ之ヲ考察シタ。今之ヲ總括的ニ敘述スレバ

1) 容貌的耳長ハ諸人種中大ナル部ニ屬シ、蒙古系民族ノ數値ニ近似シテキル。

2) 容貌的耳幅モ諸人種中大ナル部ニ屬シ

Aino = 近い數値ヲ示シテキル。

3) 形態的耳長ハ人類學上重要視サレテキナイシ、又余ノ檢索ニ於テモ人類學的意義ヲ認メナイ。

4) 形態的耳幅ハソノ數値ハ日本人ノソレニ略近イ數値ヲ示シテキルガ人類學的意義ハ大デナイ。

5) 容貌的耳指數ハ諸人種中小ナル部ニ屬シ、且ツ蒙古系民族モ亦ソノ數値ハ小デアリ。

6) 形態的耳指數ハ各人種間ノ動搖大デ、人種の意義ハ認メラレナイガ、動物トノ間ニ宗族發生學上ノ關係ガ認メラレル。

7) 耳基耳長指數ハ日本人ノ數値ト略一致シ

テキルガ他人種トノ人類學的意義ハ認メラレナイ。

8) Darwin 氏結節ハ人種的ニソノ出現頻度ノ特徴ハアル様デアルガ、山西支那人ト隣接民族トノ間ノ人類學的意義ハ發見出來ナカッタ。

9) 耳朶ノ形態ハ癒着型多ク、之ハ蒙古系人種群ノ特徴ノ様ニ思ハレル。

要之、山西支那人ノ耳介形態ハ蒙古系人種ノ形態ヲ具備シ、耳介面積ハ大ニシテ、長徑ハ大幅徑ハ短カキ傾向ヲ有スル耳介ヲ有シ、Darwin 氏結節ノ出現頻度ハ高ク、耳朶ノ發育ハ顯著デナク、所謂癒着型ガ多イ。

## 第 5 章 結 論

余ハ山西支那人成人男子 250 名ノ耳介ノ計測並ニ Darwin 氏結節、耳朶ノ形態ニ就キ攻究シ、ソノ人類學的知見ヲ考察シタ。

即チ

- 1) 容貌的耳長ハ  $65.43 \pm 0.092$  デアル。
- 2) 容貌的耳幅ハ  $36.98 \pm 0.041$  デアル。
- 3) 形態的耳長ハ  $30.17 \pm 0.164$  デアル。
- 4) 形態的耳幅ハ  $54.93 \pm 0.182$  デアル。
- 5) 容貌的耳指數ハ  $56.42 \pm 0.142$  デアル。
- 6) 形態的耳指數ハ  $182.02 \pm 1.215$  デアル。
- 7) 耳基耳長指數ハ  $83.97 \pm 0.124$  デアル。
- 8) Darwin 氏結節ハ第 I 型  $2.2\% \pm 0.66\%$ 、第

II 型  $1.0\% \pm 0.45\%$ 、第 III 型  $18.4\% \pm 1.73\%$ 、第 IV 型  $30.0\% \pm 2.05\%$ 、第 V 型  $25.6\% \pm 1.95\%$ 、第 VI 型  $22.8\% \pm 1.88\%$  デアル。

9) 耳朶ノ形態ハ第 I 型  $41.6\% \pm 2.20\%$ 、第 II 型  $58.4\% \pm 2.20\%$  デアル。

10) 山西支那人耳介形態ハ蒙古系人種ノ特徴ヲ有シ、ソノ民族移動ノ過程ヲ窺ヒ得ル點モ尠クナイ。

摺筆スルニ當リ松田教授ノ御教示及ビ御校閲、並ニ興村吉武部隊長ノ御援助ニ深甚ナル謝意ヲ表シ、同僚諸官ノ御厚意ニ敬意ヲ表スルモノデアリ。

## 引 用 文 獻

1) **Alexsander:** Denker u. Kahler's Handbuch der Hals-Nasen-Chrenheilkunde Bd. 6 Gehörorgan I. 2) **Blau:** Encyklopädie der Ohrenheilkunde 1900. 3) **Gradenigo:** Über die Formanomalien der Chrmuschel. Anthropologische Studie, Archiv f. Chrenheilkunde Bd. 33. 4) **Karutz:** Studien über die Form des Chres Zeitschr. f. Chrenheilkunde Bd. 31, 1897. 5) **河村,** 北陸小兒ノ人類學的研究(其ノ 2). 耳計測,

金澤醫科大學解剖學教室業績, 昭和 8 年 5 月. 6) **古屋,** 醫學統計法ノ理論ト其ノ應用. 7) **丸山,** 高砂民族活體耳翼ニ就テノ人類學的及形態學的研究. 臺灣醫學會雜誌, 300, 301 號, 昭和 5 年. 8) **Martin:** Lehrbuch der Anthorologie 9) **Marx-Münster:** Die Misbildung des Ohres, Handbuch der speziellen pathologischen Anatomie u. Histologie, Bd. 12. 10) **松村,** 兩側異常大耳症ノ一例. 耳鼻咽喉科, 2 卷, 7 號. 11)

宮島，九州日本人外耳ノ人類學的研究。第1，人類學雜誌，50卷，7號。 12) 同人，九州日本人外耳ノ人類學的研究。第2，大日本耳科會報，42卷，3號。 13) 同人，九州日本人外耳ノ人類學的研究。第3，大日本耳科會報，42卷，7號。 14) 西，九州(熊本)兒童ノ耳鼻咽喉ノ形態並ニ疾患診查成績。第1，耳垂ノ形態。大日本耳科會報，

39卷，10號。 15) Rauber-Kopsch: Lehrbuch u. Atlas der Anatomie. 16) 東海林，耳翼ノ大小形狀ニ就テノ統計的觀察。大日本耳科會報，24卷，4號。 17) 杉原，異常の大耳ノ一例。耳鼻咽喉科，4卷，8號。 18) 上田，生物統計學。 19) 內田，支那人耳翼ニ就テノ人類學的及形態學的研究。大日本耳科會報，34卷，5，6號。